

### 富士海岸の漂着ゴミと地域住民の清掃活動

名城大学 理工学部 環境創造学科  
正会員 伊藤政博  
古川敦史

#### 1. はじめに

日本でも有数の景観美を誇る富士山南側の富士海岸には、海から大量の流木、生活関連の漂着ゴミが打ち上げられている。これらの漂着ゴミの源は、富士川と狩野川の流域からのものが大半である。その総量は、海岸全域で推定総重量約 14 万tfにも達する<sup>1)</sup>。これらの漂着ゴミは最終的にはどこへも行くことなく、海岸背後で生活している地域の住民のクリーン活動などによって片づけられている。本研究は吉原海岸のクリーン活動に参加した地域の住民が、富士海岸の「漂着ゴミ」、「環境」、「利用」、「景観」に対して、どのように感じているかについて、アンケート調査を行った。本研究はこの調査結果に基づいて若干の検討を加える。

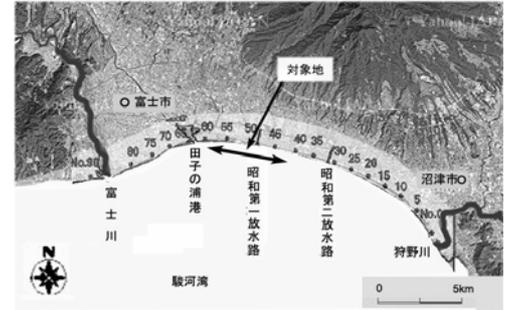


図-1 富士海岸

#### 2. アンケート実施概要

平成 18 年 11 月 5 日(日) , 午前 8 時 ~ 10 時までの 2 時間, 図-1 に示す元吉原海岸約 4km で清掃活動が開催された。このクリーン活動には、鈴川、浜町東、浜町中、浜町西、今井本、今井東、毘沙門、大野、西田中、田中、桧、柏原の 18 町内 2,861 世帯の約 2,000 人の参加があった。その参加者にアンケートを配布し、515 名の回答を得た。

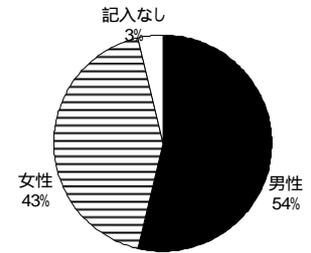
#### 3. 回答者

回答者の性別、年齢構成および職業が、図-2 に示してある。性別は男性 54%で若干の多いが、ほぼ男女半々である。また、年齢は 40 ~ 70 才が殆どで、職業的には就業者 35%と主婦 24%で、60%を占めていた。

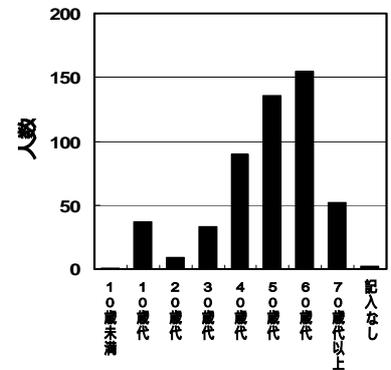
#### 4. 参加の意向と参加回数

参加者の意向について、その結果が図-3 に示してある。この図から積極的な参加:52%、どちらでもない:41%、仕方なく:4%である。積極的参加が半数以上あり、非常にアクティビティ-が高い活動である。

さらに、これまでの参加経験の回数については、図-4 に示すように 1 ~ 5 回:200 人程度、6 ~ 10 回:100 人とかなり常連の方がおられた。また、1 年間の参加の希望回数については、年 1 回:69%と大半であるが、複数回と答えるケースが、27%(この内訳は、年 2 回:68%、3 回:16%である)あった。これは、年 1 回では漂着ゴミの多さ対応しきれないためであろうか。



(a) 性別



(b) 年齢構成

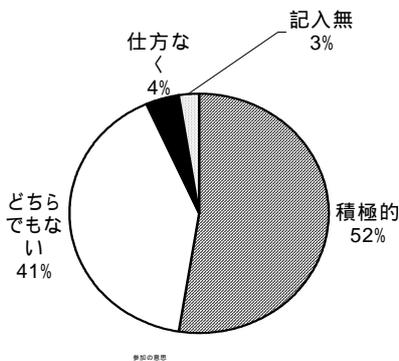


図-3 参加の意向

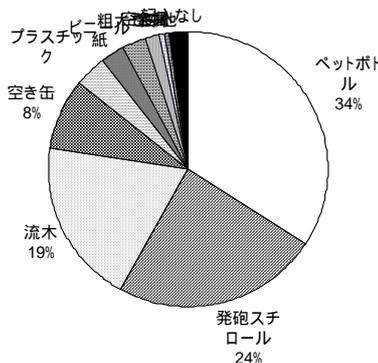
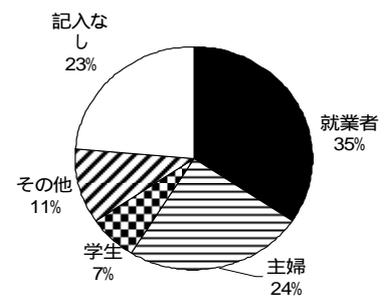


図-4 回収ゴミの種類



(c) 職業

図-2 性別、年齢構成、職業

### 5. 回収ゴミの種類

ゴミの種類毎に回収量の多いものから1位から5位まで記入してもらった結果が、図-5にまとめてある。この図から、1位がペットボトル、2位が発砲スチロール、3位が流木で、空き缶、プラスチック、紙、ビニール、粗大ゴミと続いている。特にペットボトル、発砲スチロール、空き缶、プラスチックなどの日常の生活関連ゴミが非常に多いことが注目される。これらは、流域住民の意識に問題があると言える。流木については、川の上中流域の山地から流送されてきたものと推定され、山林の保全対策が検討されなければならない。

### 6. 海岸の利用方法と景観

地域の住民が海岸を日頃どのように利用しているかについて、調べた結果が図-6にまとめてある。この図から、一番多いのが散歩で、次いで、サイクリング、釣りとなっている。

海岸の景観について、(1)5年前と現在の比較、(2)現在の景観、(3)景観に対して将来の願望、の立場から、5段階(非常に良い変化無し/普通 きわめて悪い)で答えてもらった。この結果が図-7にまとめてある。

5年前と現在の比較と現在の景観については、変化無し 極めて悪いが多い。一方、将来については、非常に良くしたいが非常に多く、将来に希望を持っていることが分かる。

### 7. まとめ

本調査により、富士海岸の保全(環境、景観)は、地元住民諸氏の積極的で熱意ある一斉クリーン作戦によって保たれていることが明らかになった。すなわち、

- 1) 一斉クリーン作戦へは、積極的に参加している方が多く、これまでの参加経験は回数が 1~10 にも及ぶ方が相当数おられる。1~5回:200人程度、6~10回:100人とかなり常連の方がおられた。また、1年間の参加の希望回数については、年1回:69%と大半であるが、複数回と答えるケースも目立つ。
- 2) 回収ゴミの内訳は、1位がペットボトル、2位が発砲スチロール、3位が流木で、次いで空き缶、プラスチック、紙、ビニール、粗大ゴミとなっている。
- 3) 日頃の海岸利用は、一番多いのが散歩で、次いで、サイクリング、釣りとなっている。
- 4) 海岸の景観については、将来に良くしたい、と思って方がかなり見られる。

この研究は、平成 18 年度卒業生古川敦史君が卒業研究としておこなったものを再整理したものである。また、アンケート調査に際して、元吉原地区の町内会連合会長杉山由隆氏を始めとする関連町内会の諸氏の協力を得て行ったものであることを明記します。

### 参考文献

1) 伊藤政博:「砂浜海岸の漂着ゴミ 富士海岸を対象にして」, 土木学会海洋開発論文集, Vol.20, pp.1187-1192, 2007.

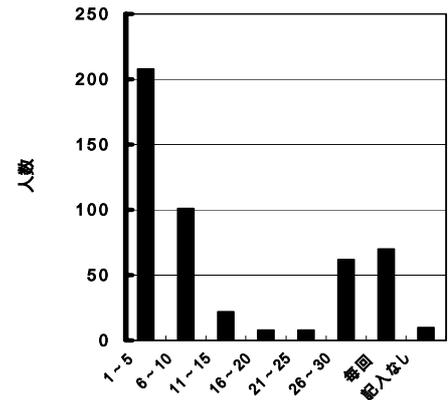


図-5 参加回数

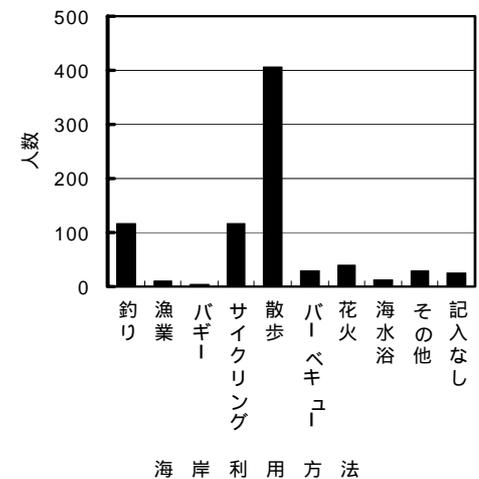


図-6 海岸の利用方法

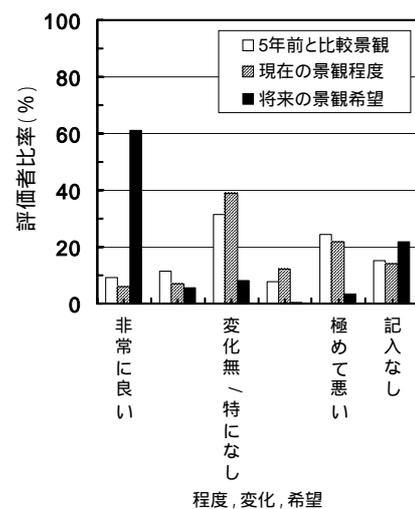


図-7 景観